

<p>日本建築学会北海道支部 2015 年度 通常総会</p>

日時 2015 年 5 月 15 日 (金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2014 年度総会議案

I 2014 年度事業報告

支部ホームページの利用促進・活用方法の検討がされ、本部 HP サーバーが新しくなるとともに、支部 HP 用のサーバーも本部に設置された。北海道支部では、本部と連動しながらもブログツールや Facebook などを用いた支部独自の HP 設定するために予算を来年度計上する。また情報内容の取捨選択などを検討する準備検討ワーキングや日常的に運営される HP 運営委員会の補強を計りたい。

主だった活動を記載する。第 87 回支部研究発表会が釧路市の釧路工業高等専門学校において開催し、発表題数 119 題、活発な討論が行われた。吉野博会長の特別講演会「新体制における課題と対応—特に震災復興対応と低炭素都市・建築の実現に向けて」が開催された。同時に新たな試みとして企業参加の構造パネル展を開催した。また支部発表会において若手発表者を顕彰する「北海道支部研究発表会優秀講演奨励賞」は今回で 4 回目である。北海道建築作品発表会は第 34 回を迎え、北海道近代美術館において開催され、25 作品の発表とフォーラム討論が行われた。

表彰関係では、北海道の建築技術、文化の継承に対する評価を会員外も対象に募集・審査する北海道支部技術賞がある。今年度は「北海道生まれの耐震・断熱改修工法—既存木造住宅の壁内気流止め及び接合部補強・壁耐震力向上技術」と「地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技術の継承」の 2 件が選定された。

北海道建築賞は、39 回目となり、北海道建築奨励賞に大杉 崇君「イヌジェンヌの家」の設計、海藤裕司君「伊達市総合体育館あかつき」の設計の 2 作品が受賞した。授賞式後、記念講演会が開催された。また各賞の選定に関する透明性については、各賞の選考委員名や同内規、表彰規定ならびに過去の受賞作の審査経緯も含めて支部 HP に掲載されている。

本部助成の「特色ある支部活動」は、支部費配分の増額のために 2014 年度をもって一旦休止するが、北海道支部の特色ある支部活動「大雪による建物倒壊危険度判定方法の策定」は、空き家による災害の社会的問題に言及し、自治体で利用できる判定システムの提案研究は好評であった。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2014 年 5 月 16 日
会場 北海道建設会館
出席正会員 62 名 (委任状 20 通)

当支部地域在住正会員 898 名の 30 分の 1、29 名以上の出席により成立

2013 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2014 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 支部役員会

5 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会（主査：齊藤 雅也君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部の学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2014年度の支部研究発表会で構造専門委員会が主体となって実施した技術パネル展を学術委員会が引き継ぎ、2015年度の支部研究発表会で継続実施することとした。

(1) 研究助成（特定課題研究）

2015年度からの特定課題研究の募集に以下の1件の応募があり、審議の上で採択した。

「寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究」森 太郎主査 2015-16

(2) 北海道支部技術賞選考委員会

2014年度支部技術賞は、下記5件の応募（応募順・技術名のみ記載）があり、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点から下記(c)および(d)の2件を表彰候補技術として選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

(a) 放送機能維持に配慮した建物上鉄塔における制振補強技術の開発

(b) 地域シーズを活用した地域住宅の実現と普及

(c) 北海道生まれの耐震・断熱改修工法

－既存木造住宅の壁内気流止め及び接合部補強・壁耐力向上技術－

(d) 地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承

(e) 地場で生産・加工したカラマツとRCを組み合わせたトライーハイブリッド構造の開発

(3) 建築文化週間事業

以下の2件の申請があり、次年度の事業に採択した。

・歴史意匠専門委員会＋都市計画専門委員会＋環境工学専門委員会：「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために－国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として（2015.10.10，会場：札幌市立大学サテライトキャンパス）」

・都市防災専門委員会：「地震時の我が家のバーチャル体験（2015.10，会場：釧路管内）」

(4) 支部研究発表会 技術パネル展の企画準備

2014年度の支部研究発表会の会場で、構造専門委員会によって技術パネル展を開催し、好評であった。それを受けて次年度以降、支部研究発表会の会場を活用して、技術パネル展を学術委員会と支部研究発表会実行委員会が協働して開催することとした。

(5) 道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

・小樽工業高校に環境工学専門委員会：半澤久委員（北海道科学大学）を派遣し、講演「環境とエネルギーの関係について学ぼう－省エネルギーへのアプローチ（2014.12.16）」を実施した。

・苫小牧工業高等学校に構造専門委員会：岡崎太一郎委員（北海道大学）を派遣し、講演「建築構造を裏付ける科学（2015.3.16）」を実施した。

<今後の予定：（ ）は担当専門委員会>

・2015年度：室蘭工業高校（都市計画専門委員会），名寄産業高校（北方系住宅専門委員会）

・2016年度：札幌工業高校（材料施工専門委員会），函館工業高校（建築計画専門委員会）

・2017年度：歴史意匠専門委員会，都市防災専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：長谷川拓哉君，委員数：22名，委員会開催数：5回）

2014年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計5回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当を決め報告をしていただき、最近の研究動向について意見の交換を行った。2014年4月14日（月）に「札幌競馬場スタンド改築その他工事」を、8月4日（月）に「北海道大学植物園内博物館補強工事」の

現場見学会を構造専門委員会と共催で行った。

◆ 構造専門委員会（主査：溝口 光男君，委員数：21名，委員会開催数：2回）

- 1) 構成委員数は21名。
- 2) 委員会は、6月27日と12月18日に開催(都市防災専門委員会と合同)し、通信会議(E-mail利用)を9月30日と2月11日に行った。幹事会は5月26日、9月22日、10月18日に開催し、通信会議を2月4日に行った。
- 3) 講演会は、5月15日に佐分利和宏氏(竹中工務店)「建築の構造を設計することとは」を鉄鋼連盟・JSCA支部と共催、7月19日に「岡田成幸先生(北大)の2014AIJ賞(論文)受賞記念講演会」を北大・都市防災専門委員会と共催、12月11日に金箱温春氏(金箱構造設計事務所)「21世紀の建築と構造デザイン」を鉄鋼連盟と共催、合計3回開催した。
- 4) 見学会は、4月14日に「札幌競馬場スタンド改築その他工事」、8月4日に「北海道大学植物園内博物館本館改修工事」の2回の現場見学会を材料施工専門委員会と合同で実施した。また、6月27日に「(仮称)防災まちづくり拠点施設建築主体他工事の現場見学会を釧路にて都市防災専門委員会と合同で実施した。
- 5) 勉強会は、12月18日に北大の飯場正紀先生を講師として「2011年東北地方太平洋沖地震における杭基礎の被害概要」について行った。
- 6) 調査研究推進のための行動計画の検討と実施については、特色ある支部活動助成へ企画「アイスシエルを作ろう」を応募することを検討した(特色ある支部活動助成が3年間募集中止となったため検討に留まった)。
- 7) 工業高校巡回講演会の講師は、北大の岡崎太郎先生を推薦し、3月16日に苫小牧工業高校で「建築構造を裏づける科学」と題して講演した。
- 8) 年度計画にはなかったものの、6月28日に支部研究発表会にてパネル展を実施した。出展企業数は8社9件、パネル数は22枚を展示した。

◆ 環境工学専門委員会（主査：森 太郎君，委員数：14名，委員会開催数：3回）

- 1) 第2回委員会にて、若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握した。(草間友花氏(室内気候研究所)、2014/10/31、北海道大学工学部A115会議室、20名)
- 2) 北方系住宅委員会と共催で、「見学会：下川町一の橋(これからの住まいと暮らしを考える)」を企画・実施した(2014年11月1日@下川町)。
- 3) 空気調和・衛生工学会50周年記念講演会を支援した。(2014/11/13、京王プラザホテル、射場本忠彦氏(東京電機大学)、「見える化のその先」、112名)
- 4) 市民セミナー「寒冷地の戸建住宅における省エネルギーと快適性を目指して」を支援した。(2015/2/3、ANAホテル千歳、菊田弘輝氏(北海道大学)、30名)
- 5) 「第9回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs'14」を開催した。また、大村裕子氏(アークツアー・アジア)による特別講演会を開催した(2015年3月6日@札幌市立大学サテライトキャンパス、全29題、参加50名)。
- 6) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催 セミナー「次世代都市・建築のエネルギー需給の在り方 北海道の未来はどうなる？」(2015/3/10、北海道大学学術交流会会館、佐土原聡氏、他(横浜国立大学)、70名)を支援した。
- 7) アイルランドー日本エネルギーセミナーを支援した。2015/3/23、北海道大学工学部フロンティア応用化学研究棟鈴木章記念ホール、ブライアン・ノートン氏(ダブリン工科大学)他、74名)
- 8) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催見学会を支援した。(2015/3/29、赤レンガ前エネルギーセンター、23名)

◆ 建築計画専門委員会（主査：森 傑君，委員数：13名，委員会開催数：2回）

本年度も昨年度から継続して、これまでの活動実績を踏まえつつ、今後もより精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、若手を中心としたメンバー構成のもと再活性化に取り組んだ。具体

的には、2015年3月11日に公開研究会「ユニバーサルデザイン」はどこに向かうのか～北海道の取り組み事例から考える～」を、日本福祉のまちづくり学会北海道支部との共催で開催した。

◆ **都市計画専門委員会**（主査：坂井 文君，委員数：14名，委員会開催数：2回）

都市計画委員会は、12月に公開シンポジウム「帯広電信通り商店街のまちづくり」を開催し、振興組合理事長の長谷氏による講演の後、参加者と地方都市の中心市街地活性化の手法について議論した。また1月には、主に若手専門家や学生を対象として建築都市開発の技術をいかに海外において展開するか、という視点から日建設計の田中氏に講演をお願いし、参加者と異なる文化における建築都市技術の展開の方策について議論した。委員会においては継続的に開催しているシンポや講演会の成果をどのように今後の活動に展開するのか議論された。

◆ **歴史意匠専門委員会**（主査：羽深 久夫君，委員数：16名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。

- ① 建築文化週間事業は「建築散歩～函館市」をテーマに函館の歴史的建造物を見学し、文化財建造物を地域資源として活用する普及啓発を行った（10/11、参加者34名）。
- ② 北海道内の文化財建造物については、2013年度に引続きWGで函館市、札幌市、小樽市、旭川市、帯広市、室蘭市、江別市、富良野市、厚真町、江差町、北海道大学第2農場、北海道開拓の村等の事例をもとに現状把握を行い、北海道ヘリテイジマネージャー育成講習会の修了生を活用し、確認体制を構築するよう検討を行った。
- ③ 室蘭市の文化財建造物の見学を行い、絵鞆小学校、北星株式会社、恵山荘（栗林本宅）を室蘭に残る歴史的建築物の保存活用を考える市民団体である蘭歴建見会と合同で調査し、保存と活用の意見交換を行った。

◆ **北方系住宅専門委員会**（主査：谷口 尚弘君，委員数：13名，委員会開催数：3回）

- 1) 2013年大会時に関連行事として「住まいづくり市民セミナー」で発行した報告書の今後の作成について検討した。また、パネルの活用方法について検討した。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会を下川町にて開催した。
- 3) 住宅ストックの持続的活用による北海道の住文化の形成に資するために、昨年度まで支部特定課題で採択されていた「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」の研究を継続して実施した。

◆ **都市防災専門委員会**（主査：戸松 誠君，委員数：20名，委員会開催数：2回，通信委員会開催数：6回）

都市防災専門委員会では、10月4日に厚真町で開催された建築文化週間「厚真町 HUG」への運営協力支援、1月11日に開催された「釧路防災ワンデー『釧路防災講演会 2015』～厳冬の避難を考える～」に対する協力を行い、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、本部災害委員会からの災害情報に関して、委員会内部に周知し情報の共有を図った。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

(2013年度より)

◆ **寒冷地におけるフライアッシュの有効利用研究委員会**（主査：深瀬 孝之君，委員数：19名，委員会開催数：6回）

2014年度は、昨年度実施したフライアッシュに関するアンケート調査から有効利用に向けた課題を抽出し、その解決に向けた活動を行った。

- 1) アンケート調査結果の概要に関しては、委員会の中間報告として北海道支部研究発表会（2014年6月）において報告した。
- 2) フライアッシュコンクリートの理解促進を目的としたQ&A集を取り纏めた。
- 3) 2015年度北海道支部研究発表会において、委員会の最終報告を実施する。

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2013年度より)

◆建築史意匠研究委員会（主査：羽深 久夫君，委員数：16名，委員会開催数：4回）

「北海道における戦後建築の変遷とその特徴に関する基礎的研究」をテーマとして、戦後の北海道で建設された建築の変遷とその特徴を把握するため、各地に遺存する当該建築の残存状況を悉皆的に調査し、今後の調査・分析の基礎データを構築するため2年度目の調査研究を行った。資料は『北海道の建築』、『新建築』、『北方建築』、『日本近代建築総覧 北海道・東北』に掲載される作品を元にリストを作成し、項目は①竣工年、②作品名称、③設計者、④施主、⑤所在地、⑥建築用途・種別、⑦施工者、⑧構造（主構造・一部）、⑨面積（敷地・建築・延床）、⑩外部仕上げ（屋根・外壁・柱・梁）、⑪総工費、⑫階層、⑬設備、⑭発表媒体、⑮工期、⑯現存、⑰現況の17項目とした。

本年度は、①後志（小樽市、余市町、古平町）、②石狩（石狩市、江別市、千歳市）、③空知（岩見沢市、美唄市、砂川市、奈井江町、歌志内市、滝川市、新十津川町、芦別市）、④留萌（留萌市、増毛町、初山別村、羽幌町、小平町）、⑤宗谷（稚内市、豊富町）、⑥上川（旭川市、鷹栖町、名寄市）、⑦釧路（弟子屈町）、⑧オホーツク（網走市、北見市、紋別市、美幌町、斜里町、小清水町）、⑨胆振（室蘭市、苫小牧市）⑩渡島（函館市）の10つの振興局の42市町村で調査を実施した。

2013年度の報告は、第87回日本建築学会北海道支部研究発表会（2014.6.28、釧路高専）において「北海道における戦後建築の変遷とその特徴（2013年度の調査報告）」として行った。

3. 委託調査研究の受託

なし

4. 支部研究発表会の実施（主査：森 太郎君，実行委員会委員数：16名，委員会開催数3回）

4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第87回研究発表会

日時：2014年6月29日(土)

場所：釧路工業高等専門学校（釧路市）

参加者数：約160名

4. 2 実行委員会委員

主査 森太郎（北海道大学） 幹事 草苺敏夫，桑原浩平（釧路高専），岡本浩一（北海学園大学）

材料専門委員会

三森敏司 釧路高専

金森重行 鹿島建設

構造専門委員会

鈴木邦康 釧路高専

千葉隆弘 北海道科学大学

環境工学専門委員会

湯川崇 札幌市立大学

岸本嘉彦 室蘭工業大学

建築計専門画委員会

馬場麻衣 北方建築総合研究所

石橋達勇 北海学園大学

都市計画委員会

久保勝裕 北海道科学大学
片山めぐみ 札幌市立大学
歴史意匠専門委員会
角 哲 北海道大学
北方系住宅専門委員会
山崎正弘 ハウ計画設計
谷口尚弘 北海道科学大学
都市防災専門委員会
加藤雅也 釧路高専
竹内慎一 北方建築総合研究所

4. 3 実行委員会開催スケジュール

11 月末日：建築雑誌入稿、1 月：第 1 回実行委員会メール審議、2 月：第 2 回実行委員会メール審議、1 月：建築雑誌会告、2 月下旬：HP 作成、3 月上旬：HP 原稿募集、4/17：原稿締め切り、4/25：第 3 回実行委員会プロ編、5 月上旬プロ編校正、5 月中旬：CD 印刷入稿、6 月中旬：CD 発送、6/29：支部研究発表会

4. 4 研究発表会

論文題数 119 件

優秀講演奨励賞

環境：濱田裕章(北海道大学大学院)，小島俊一(北海道大学大学院)

構造：花木健哉(室蘭工業大学)，菱田俊介(北海道大学大学院)，岡聖也(室蘭工業大学)，森麻由(北海道大学大学院)

歴史：橋本亜莉沙(北海道大学大学院)，加持亮輔(北海道大学大学院)，山崎嵩拓(北海道大学大学院)

材料：塚本康誉(室蘭工業大学)

4. 5 特別企画

特別講演会

吉野 博(日本建築学会会長)「新体制における課題と対応ー特に震災復興対応と低炭素都市・建築の実現に向けて」

会場：釧路工業高等専門学校大講義室

挨拶：佐藤 孝(北海道科学大学)，司会：森 太郎(北海道大学)，記録：岸本嘉彦(室蘭工業大学)

参加者数：約 120 名

4. 6 懇親会

会場：アクア・ベール(釧路市栄町 8-3)

会費：一般=4,000 円 学生=2,000 円

参加者数：92 名

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会(主査：小篠 隆生君 委員 7 名 委員会開催数 3 回現地審査 3 回

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築(アーバン・デザイン等の領域も含む)の中から本賞・特別賞・奨励賞に相応しい作品を選考し、2014 年度で 39 回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」

の視点を掲げている。

今年度は、4月15日（火）の応募開始から10月24日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第38回北海道建築賞を実施することができた。

- 5月1日（木）： 第1回委員会 応募状況の確認および応募推薦作品の選定、審査方法・スケジュールの確認。
- 5月29日（木）： 第1回審査会 応募10作品が審査対象作品となることを確認。書類審査で現地審査対象作品6作品を選考。
- 7月2日（水）： 第1回現地審査
「伊達市総合体育館あかつき」（伊達市）
- 8月4日（月）： 第2回現地審査
「代々木ゼミナール札幌校」（札幌市）、「イヌエンジュの家」（札幌市）、北海紙管株式会社本社ビル（札幌市）
- 8月5日（火）： 第3回現地審査
「ちだ歯科クリニック」（札幌市）、「ふきのとう子ども図書館」（札幌市）
- 8月21日（水）： 第2回審査会 最終選考を行い以下の結果となった。
・北海道建築賞 該当なし
・北海道建築奨励賞 「イヌエンジュの家」（大杉崇君／ATELIER 02）
・北海道建築奨励賞 「伊達市総合体育館 あかつき」（海藤裕司君／（株）山下設計北海道支社）
- 10月24日（金）： 北海道大学遠友学舎にて表彰式および受賞記念講演会が開催され、設計者自身による授賞作品のコンセプト構築から設計プログラムへの展開、さらにその実施プロセスについて詳しく解説された。また、その後、記念パネルディスカッションが開催され、建築賞委員会のコーディネートで2授賞者とともに、建築への取り組み姿勢、地域における公共施設のあり方、場所（地域・気候）への認識、素材とディテール表現などについて、来場者からの質問も含めて議論された。授賞作品を通じて、現代の北海道における建築を取り囲む言説や課題などに通じる深く語り合うことができ、建築文化週間の行事としても有意義な建築文化の醸成ができた。

審査員：

主査：小篠 隆生君

委員：加藤 誠君、久保田 克己君、君，齋藤 利明君，鈴木 敏司君，平尾 稔幸君
山田 深君

（2）受賞者

◆北海道建築賞

該当作品なし

◆北海道建築奨励賞

大杉 崇君（ATELIER 02）

作品名—「イヌエンジュの家」の設計

◆北海道建築奨励賞

海藤 裕司君（株式会社山下設計北海道支社）

作品名—「伊達市総合体育館 あかつき」の設計

（3）審査経緯

今年度の北海道建築賞委員会は、2014年5月1日、札幌市内で2014年度の第1回委員会を開催した。今年度の審査方法を審議し、北海道建築賞の主旨に沿った建築を評価する視点と応募作品に対する審査方法を委員全員で確認した。その後、応募状況を検討し、委員の中で注目に値する作品を「2013北海道建築作品発表会」や他の発表作品などの情報をもとに議論し、その中から委員からの応募推薦対象作品として6作品を選び、各設計者に正式な応募手続きを依頼した。

第1回の審査委員会は、5月29日に開催され、応募作品が6点に前述の6作品の中から実際に応募のあった4作品を加えた計10作品を今年度の審査対象作品とした。

応募作品及び応募設計者（応募順）：

- ① ホワイトアトリウムハウス（小山将史君／一級建築士事務所小山将史建築設計事務所）
- ② （仮称）十勝地域リハビリセンター新築工事（松村正人君、恒川真一君、綾部圭介君、保久原功君、松浦有子君／大成建設（株）一級建築士事務所）
- ③ 中ノ中ノ庭（岩澤浩一君／id一級建築士事務所）
- ④ 代々木ゼミナール札幌校（平井浩之君、中藤泰昭君／大成建設（株）一級建築士事務所）
- ⑤ イヌエンジュの家（大杉崇君／ATELIER 02）
- ⑥ 伊達市総合体育館 あかつき（海藤裕司君、菅俊治君／（株）山下設計北海道支店、（株）菅設計企画）
- ⑦ 北海紙管株式会社本社ビル（鈴木理君／（株）鈴木理アトリエ一級建築士事務所）
- ⑧ ちだ歯科クリニック（遠藤謙一良君／（株）遠藤建築アトリエ）
- ⑨ うどんの五衛門（伊達昌広君／（有）伊達計画所）
- ⑩ ふきのとう子ども図書館（安藤敏郎君／（株）安藤敏郎建築設計事務所）

審査における評価の視点は、これまでの北海道建築賞としての選考の視点を崩さずに、計画理論や設計・デザインに対しての新しい挑戦や問題意識、新しい生活・環境の構築を目指した意欲と新たなビジョンの構築に対する「先進性」、自然、環境、人間社会総体を含めた時間的、空間的「規範性」、それらを実現・統合して建築としての高い質を確保することを目指す「洗練度」の3項目を共通価値とすることを最初に委員全員で確認した。その後、現地審査対象作品を選定する書類審査に移った。応募資料の内容を精査した後、議論を重ね現地審査該当作品（順不同）として以下の6作品、④代々木ゼミナール札幌校、⑤イヌエンジュの家、⑥伊達市総合体育館 あかつき、⑦北海紙管株式会社本社ビル、⑧ちだ歯科クリニック、⑩ふきのとう子ども図書館が選定された。現地審査は、委員7名の全員の参加を原則に3回に分けて実施された。7月2日に⑥伊達市総合体育館 あかつき、8月4日に④代々木ゼミナール札幌校、⑤イヌエンジュの家、⑦北海紙管株式会社本社ビル、8月5日に⑧ちだ歯科クリニック、⑩ふきのとう子ども図書館の審査を周辺環境から建築空間の内外まで詳細な観察と、設計者やクライアントからの説明や質疑などを行った。最終審査会は、8月26日、札幌市内で開催され、現地審査作品を対象に最終選考が行われた。選考審査は、各委員が各作品に対する見解を述べたのち、候補作品の設計プロジェクトに関係した委員がその後の選考から外れ、候補作品全体について議論、さらには、個々の作品の評価と意義が整理され、長い討議になった。その選考過程で、6作品よりも、④代々木ゼミナール札幌校、⑦北海紙管株式会社本社ビルが選考対象から外れ、4作品に絞られた。その上で、各作品に対して評価と意義を再度吟味した。⑧ちだ歯科クリニックと⑩ふきのとう子ども図書館は、それぞれ特徴的な建築作品であることは、評価されつつも、細部の完成度、洗練度などと言った北海道建築賞の審査基準には届かない部分が散見されるという指摘が大勢を占め、賞の選考より外すことで合意された。さらに、残り2作品に対して詳細な検討に入った。数名の委員から今年度は、作品自体のレベルが例年に比べるとやや低調であるという趣旨の意見も出されたが、本賞には届かないが、建築奨励賞としての基準は十分満たしているとの全員一致の評価より、⑤イヌエンジュの家、⑥伊達市総合体育館 あかつきを本年度の北海道建築奨励賞とした。

「イヌエンジュの家」は、敷地にあったイヌエンジュを取り囲むように住宅部分が配置された一見コートハウスの形式をとっているかのように見える。しかし、中庭に開いた部分だけでなく、多様な開口の取り方による光の取り入れ方や微妙な視線の抜けなどによって、コートハウスというよりそれは、区画や面積はごく一般的な住宅地に建つ住宅に、多様な空間を紡ぎ出すということに重きをおいていると理解できる。今までの北海道の住宅建築が、環境性能重視のボックス型のフォルムが体勢を占める中、このような多孔質で外壁面積が大きな空間を創り出す設計手法は、あえて遺棄されてきたと言える。しかし、環境性能を十分確保できる外壁や開口部、換気システムなどの技術をしっかり活用しながら、本来求められるべきであると作者が考える住宅におけるライフスタイルを享受することへの指向を素直に表現した作品として、評価できる。

「伊達市総合体育館 あかつき」は、上部に巡らされたポリカーボネートを使ったハイサイドライトより降り注ぐ光で、日中はほとんど照明無しにも十分に競技が出来るほどの光環境を達成しており、スポーツ施設としての快適性が十分に確保されている。同時にそれは、外観に軽やかさ

を生む仕掛けにもなっている。また、暖房システムは、既に地域で生産されているペレットを使ったボイラーによるものであり、太陽光利用とともに、再生可能エネルギーを適切かつ最大限に利用した環境建築として今後の北海道の建築の一つの方向性を誠実にトレースし、かつ実現している建築である。また、これらの選択は単に環境配慮ということだけではなく、有珠山という活火山を抱える地域において、災害時には地域の避難施設として機能しうる建築の持続可能性を真正面から捉え回答した建築でもある。このように建築に求められる機能を洗練された技術を用いて、地域のニーズに合わせて実現していく公共施設の設計に求められる規範的設計態度は大いに評価できるものである。

今回の建築賞の審査課程で大きな議論になったのは、昨今の建築を取り巻く状況の厳しさと作品に対する設計者の希求の問題である。財政的にも生産コストが圧迫されながらも、建築に希求すべきものは何かということが失われては、作品と呼べる建築は永遠に生まれえない。さらに、設計者一人一人の建築への情熱的な取り組みは、単に建築を設計し、デザインする部分のみに拘泥し、耽美的に美的追求のみをしていては、到底実現できないだろう。建築の大小、住宅か公共建築かに関わらず、統合的に建築生成のプロセスをデザインすることとは何なのかを一度真剣に考え直すところから、地域に根付く、新しい建築が生まれるのではないだろうか。

現地審査6作品のうち、4作品は残念な結果となったが、評価の要点を以下に述べ、今後の活躍に期待したい。

- 代々木ゼミナール札幌校：予備校と言えども、一般の教育施設と同様に学生が勉学し、生活をする場所であることは変わらない。「学びの縁側」と名付けられた部分は、本当に学生のための空間なのか。外壁をガラスカーテンウォールで覆うことで懸念される室内環境を確保するためバッファーという外装デザイン優先の判断がそこにはあり、決して学生のための空間とは見えない。予備校産業の転換期の中で建築というプロパティをどう活用するかという企業としてのニーズと、学生の居場所のあり方をどのように結びつけるかという設計者としてのしたたかさが見られなかったところが残念である。
- 北海紙管株式会社本社ビル：企業のアイデンティティである紙管をファサードに使って、コーポレート・アイデンティティを表現したファサードが特徴的な建築である。しかし、内部のオフィス空間は、何の提案も見られない通常の執務室であり、選択した構造形式もオフィス空間としての答えの出し方として適切だったのかは疑問が残る。オフィス空間とファサード、エントランスからの縦動線などから期待する新しさとのギャップが著しく、残念である。
- ちだ歯科クリニック：民間の歯科医療を担う施設として、診療室の機能的な配置やそこでの快適性を保つ照明、換気などの室内環境は、大型化する歯科医療環境に対する作者としての熟練した思考と技術の結果として評価できる。また、什器のレイアウト、デザインも技巧的かつ的確である。しかし、機能的であるがために省略され、押し込められたバックヤードのあり方は、働く環境として正しい回答なのかに疑問を残した。
- ふきのとう子ども図書館：すでに計画が進んだ中盤から建築家として建設に関わり、しかも財政的な脆弱性などにも立ち向かいながら、施主が求める建築を成立させていったプロセスには、委員全員の賛同を得た。惜しむらくは、障がいを持った子どもが本に触れるという施主が創り出したソフトをどのように建築として翻訳するのかという部分に建築家としての提案が見たかったところである。しかし、このような取り組みが新たな建築として実現したことは、社会にとっては重要な意義を持つことは言うまでもない。

(文責：小篠 隆生)

(4) 審査講評

◆ 北海道建築奨励賞 「イヌエンジュの家」

札幌市手稲山ふもとの傾斜する宅地の中央に大きなイヌエンジュの木が生えていたのである。(イヌエンジュは九州～北海道にみられる豆科の落葉高木で高さ15mほどになりその実はサヤに入っていて食べることもできる)

この家は、イヌエンジュをコの字型に囲うように、傾斜地に沿って徐々にレベルを上げながら、8畳間ほどの小さな空間が反時計回りに方向を変えつつ連続していく構成となっている。エントランス上部から別れて時計回りに回ると正

面2階のアトリエ空間である。中庭に向かってそれぞれの部屋が開いているのではなく、中庭からの光をくまなく取り込んでいるのでもない。むしろ中庭のイヌエンジュは視覚的にも意識的にもとところどころに垣間見えるだけで、直接的に眺めたり木陰を楽しむということではなく、その存在を間接的に心のうちに感じながら時を過ごすことを意図しているかのようである。

全体的に独特の空間構成となっているものの、設計者としては奇をてらおうとしたものではなく、イヌエンジュへの想いと土地の気配に対して素直に空間を呼応させていった結果であろうことが感じられる。図面や写真からはわかりにくいですが、場面場面での景色と反射光の光量の変化が秀逸であり、審査員全員が好感をもった心地よさが確かに存在している。

重力換気や断熱やディテールなど現在の北海道における住宅設計のなかで上質なレベルに達しているものの、先鋭的な考え方や傑出した技巧があるわけではない。とらえようによってはきわめてスタンダードな住居と言えなくもなく、流行的ではない安定感があり、むしろ普通であることの大切さを主張しているとも言える。

しかしながら、物理的ではなく無意識的な心の内面においてイヌエンジュの枝の広がりの下に抱かれて暮らすという奥深い感覚を喚起しているという点において、この住まいはとても絶妙に出来ているように思われる。北海道のアイヌの人々はこの木を「チクペニ」と呼び、人間の生きた標（しるべ）としたそうである。大きな木があればそれに寄り添いたいという気持ちや、その下に座りたいという心持ちは、人類が遺伝子的に持ち続けている潜在意識ではなかろうか。それをあくまで目ではなく心に感じさせる全体構成である。樹木を強調する空間ではなく、樹木におもねることなく、そっと寄り添い、たまに会話するような空間になっている。

「イヌエンジュは30年前から住んでいた住人であり、この住人とコミュニケーションを育み、30年後が楽しみ」という設計者の想いが、スパイスのようなストレートさではなく、隠し味的な謙虚さで込められているところがとても魅力的であり、その点においてこの建築を大いに評価するとともに、設計者の環境としての空間づくりの将来性に期待したい。

(文責:平尾 稔幸)

◆ 北海道建築奨励賞 「伊達市総合体育館 あかつき」

東日本大震災以来、災害時における住民の安全確保の関心が以前よりも高まり、また公共施設に求められる役割も大きく変わりつつある。特に日常の施設機能に加えて災害時機能が強く求められる傾向がみられる。公共施設における災害時機能とは、インフラが遮断されても一時的に生活できる環境を確保することであると考えた場合、そのための設備の増大とそれに伴うコスト負担が問題になる。こういった機能は結果的に利用されない可能性もあり、また日常の施設機能にはその恩恵がほとんど感じられないことも多く、過剰設備として議論されることもある。災害時の機能を併せ持つ公共施設のあり方は未だ模索の段階にある。

本計画は東日本大震災以前から計画された市の総合体育館であり、メイン・サブアリーナとプールを併せ持つ複合体は市民の生涯活動の拠点として位置づけられている。一方、災害時にも避難施設として機能することも等しく重要な機能として掲げられている。このように日常の体育施設機能と災害時機能を両立させるという現代的なテーマに対して、本計画では説得力のある解決案が提示されている。具体的にいうと、災害時における建築的な対処技術が日常利用にとっても価値のあるものとなり、またその逆も成り立つことで、トータルとして過剰な設備投資を避けつつ無理のない施設運用を図ることが意図されている。「通常利用から災害利用へのシームレスな移行」という設計者の姿勢からも、本計画における方向性を読み取ることができる。

重要な手法として建築のコンパクト化が試みられている。災害時に避難者の居場所となるメインアリーナと、救援物資保管場所となるサブアリーナを一体化させることで両者を機能的に結びつけるとともに、外壁面積の縮小によってできるだけ暖房エネルギーに頼らない状況をつくりだした。このことは、日常利用時の暖房エネルギー削減や躯体減による建設費削減をもたらした。またエネルギー面については、全ての熱源を地場の木質ペレットによるボイラーとして災害時においても備蓄と域内供給によってまかなう体制を確立している。維持管理をしっかりと行うことで安定した運用を可能にし、その結果他のエネルギーとの2重化による過剰な設備投資を避けることができた。さらに自然光利用の工夫として、メインアリーナのハイサイドライトは日中時に照

明不要の避難場所環境をもたらしたが、このことは日常の照明負荷の削減に大きく寄与している。しかしそれ以上に、ポリカーボネート版による拡散光によってスポーツの場にふさわしい均質で明るい光環境を作り出すことに成功している。直射光を遮蔽するディテールや自然光拡散を阻害しない架構形式を含め、設計者の工夫が結実している。

以上に見られるように、日常利用と災害時利用の技術を融合させて無駄のない仕組みを構築することが具現化されている。実際の計画に当たっては、市が主催する「総合体育館等建設検討会議」において、スペック、規模、エネルギーなどの方向性が議論されており、その結果ぶれのない強固なコンセプトが導かれたことも成功の要因であろう。

広々としただて歴史の杜防災公園に佇む個性的なファサードデザインは、安全性に裏打ちされたシンボルとして新しい風景をつくりだした。市民にとっての公共施設とはどのようなものかという問いに対して、ひとつのモデルを確立した設計者の手腕を高く評価したい。

(文責：加藤 誠)

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

審査員：

主査：菅原 秀見君

委員：遠藤謙一良君，小倉 寛征君，小西 彦仁君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

(2) 受賞者

◆ 大学の部（応募作品数：13点）

- ・銀賞 北原 海君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 小さなまちの再構築
- ・銅賞 菊地 翔太君：北海道科学大学空間創造部建築学科
作品名 — 生活の貯蔵庫
- ・銅賞 今井あかね君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — Future Cave

◆ 短大・高専・専門学校部（応募作品数：5点）

- ・金賞 鳴海 舜君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — コミュニティを体現する足場群
- ・金賞 中山 琴未君：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — Interaction Line
- ・銅賞 秋山 愛斗君：北海道職業能力開発大学校建築科
作品名 — infinite possibility of The RIKUZENTAKATA
— 3. 11 の教訓を活かした陸前高田市都市復興計画 —

◆ 工業高校の部（応募作品数：5点）

- ・金賞 高坂 昌樹君：北海道札幌工業高等学校建築科
本間 結君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 — PUBLIC SQUARE～つうじあう小学校～
- ・銀賞 鈴木 翔君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — 名寄市が一致団結するまちづくり計画 すきまに築く
- ・銅賞 神山 碧君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — BOOKSHELF LIBRARY
五感で学ぶ生涯学習ゾーン

(3) 審査講評

◆大学の部

銀賞・北原 海君

夕張市の炭鉱時代から続く老朽化した住宅・共同住宅から新しい場所に集まって住む計画である。作品は傾斜する屋根が連なる住居群が緑豊かなゆったりとした敷地の中に配置され、北海道で古くからみられる色彩で彩られたどこか懐かしさと心地良さを感じる風景が印象的だ。計画にあたり、住民・行政にヒアリング調査をした事から、経済合理性と地元施工を前提としたシンプルな中に生きたコミュニティが再構築される為に、個々の住民のライフスタイル・意向を反映し共同で住むための共有スペースもプログラムを含め慎重に計画されており、新たに小さな地域が再生される可能性が評価された。個々の建築や関係の空間表現をさらに進める事で、より作品の内容が進化する事が期待される。

(文章 遠藤謙一良)

銅賞・菊地 翔太君

地方の街はどこも同じであるが、少子高齢化となり加速度的に過疎化が進行している。この計画の北海道蘭越町目名地区も例外ではない。そんな地はいつしか空洞化も併発する。その中において地区最大の空洞化空間である「農協米倉庫」のコンバージョンがこの計画である。建築構造物としても持続可能である事に着眼し、ここに街の人々が集まる複数の公共空間をボーダー状に連続していく、それは街のアーカイブ的空間でありどこか懐かしくも感じる。そうする事により未来へつなげる記憶装置ともなり得る。街の建物は次第に消滅していってもこの街の記憶はこの倉庫に宿り続ける。

この地区に残る建物を使用し人々の思や経験、視覚を封印しながら、社会現象に対応すべくこの計画を賞賛し未来に託したい。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・今井あかね君

壁一つ隔てて全てが隔絶する現代日本の集合住宅のあり方に疑問を抱いた作者の、「集まって住む」ための新しい建築の提案である。ドーム状のユニットを上下左右にランダムに重ねることにより、生活のための洞窟のような「内部」が生まれる。一方、連なるドームの間には「隙間」が生まれることになる。その隙間を「公」と「私」、「内」と「外」をつなぐ空間であると定義し、両者がゆるく曖昧に同居する集合住宅の空間モデルを示している。また、既存の団地群のなかにドーム状ユニットの表情が現れたファサードを持たせることで、新たな集合住宅の空間を象徴的に表現することにも成功している。新しい空間により生まれる暮らしや人間関係の豊かさがもう少し具体的に表現されていれば、さらに魅力的な提案となったと思う。今後の展開に多いに期待したい。以上を総合的に考慮して銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 征寛)

◆短大・高専・専門学校の部

金賞・鳴海 舜君

自身の通う学校の学生の属性の変化と施設の老朽化といった身近な問題を「コミュニティを再現する足場群」をコンセプトにまとめた作品である。学内の寮の部屋の不足、コミュニティ空間の不足などの課題への解決手法として対象敷地の余剰空間に対し、可変的で自由なシステムとして足場材を用いた提案となっており、劇画的な表現手法と相まって、どこか懐かしい魅力的な表現となっている。学生の要求(機能)から空間が作られたかのようなアノニマスな形状は、足場を用いる制約以上に多様な空間作りに成功しており、極めて高いレベルの作品であった。

よって、金賞に相応しいと判断されたものである。

(文責：齊藤 文彦)

金賞・中山 琴未君

Interaction とは、相互作用という意味である。この帯が全体をつなぎ、それぞれのファシリテーターを連結していく。このプロジェクトは町おこしを兼ねている。考えられる全ての関係の成立をこの建築にこめている。なんと気持ちのよい事だろう。人と人との関係、雪と街、道と建築、文化と人、季節と人、残すという事と伝えるという事、これらは全て「心」を介在とする。建築というのは本来そうだったはずだ。多才なスケッチは更に我々を刺激して止まない。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・秋山 愛斗君

3.11 東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市の復興計画をベースとした都市施設の提案である。まず印象に残ったのが提案が前向き、未来志向であること。災害の記憶をとどめるとか鎮魂などを提案の軸にするようなテーマ設定であるが、極めて冷静にまちの未来像を描いている。提案されている建築空間そのものは特に目新しいものがあるわけではないが、アンケートの実施やまちと建築を結びつけるアイデアの具体性など作品としての完成度は高い。

(文責：菅原 秀見)

◆ 工業高校の部

金賞・高坂 昌樹君、本間 結君

高校生とは思えない。理論的なダイアグラム、そしてすがすがしい社会の解決の仕方、そしてなんとも美しい形態をもっている。社会と小学校の接点のもち方、関連性、ましては災害時における小学校のあり方、また授業の方法論などさわりの部分だけであったが、私を納得させるのに充分であった。建築内部に入りこんだ光を想像すると、なにか心にぐっとくるものを感じられる。将来が期待される。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・鈴木 翔君

市街地の衰退への危機感を背景とした街づくり計画である。まちの隙間を生かすこと、「祭り」と「運動」をテーマにすることが論理立てて説明されており、作者の地域への愛情が感じられる。隙間に建築を挿入することにより生まれるアクティビティの連続、統一感のある景観形成などに現実性を伴う魅力がある。また、デパートの屋上に設けられた祭り小屋や体育館など屋根をモチーフとしてデザインされているが、歴史的な要素に流されることなく、シンプルにデザインされており、レベルの高い作品である。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・神山 碧君

名寄市街の持続可能なまちづくりに向け、まちの魅力を向上させる場所として「視覚」「触覚」をキーワードとした人材育成のための図書館の提案である。本棚に囲まれた大空間、その中を交差する階段やスカイウェイは、図書館のもつ「視覚」的魅力を多いに活かした空間であると言える。実習ルームや学習ルームを大空間の各所に配置することで、「触覚」(学びの場)を上手に取り込むことにも成功している。また、丁寧に作られた模型と写真によるプレゼンテーションは目を引いた。作者の設計意図が上手に表現された図面となっていると感じた。以上を総合的に考慮して銅賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 寛征)

5. 3 優秀学生・生徒 (日本建築学会北海道支部賞)

2014 年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

岩国 大貴君・藤巻 美里君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

葛西 千臣君・島田 愛香君：北海学園大学工学部建築学科

杉本 琢也君・古谷 優典君：北海道科学大学空間創造学部建築学科

加賀紀衣子君・谷田 憲彦君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
 中畑 翔君・田島 開斗君：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科
 二瓶 百花君・今 葵君：道都大学美術学部建築学科
 西山小百合君・佐藤 頌子君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
 川瀬 竜也君・久保 佳澄君：釧路工業高等専門学校建築学科
 下間山善彦君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
 岩城 正寛君：北海道職業能力開発大学校建築科
 辻村 真人君：北海道札幌工業高等学校建築科
 大平 一輝君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
 和田 大夢君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
 三國 寿之君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
 森 文信君：北海道函館工業高等学校建築科
 三浦 悠誠君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
 鈴木 魁斗君：北海道旭川工業高等学校建築科
 小林 翼君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
 関口 博史君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
 西條勇太郎君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
 島次 美里君：北海道帯広工業高等学校建築科
 箱石 竜矢君：北海道釧路工業高等学校建築科
 谷口正太郎君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
 松井 賢吾君：北海道室蘭工業高等学校建築科
 及川 健太君：北海道留萌千望高等学校建築科
 中沢 靖明君：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2014年度は、該当する法人・賛助会員等はなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：齊藤 雅也君，委員数：14名 委員会開催数2回）
 選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計14名

(2) 受賞者

◆北海道支部技術賞

一般社団法人新木造住宅技術研究協議会
 鎌田 紀彦君
 地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所
 植松 武是君
 NPO 法人住宅外装テクニカルセンター
 金澤 光明君
 森田 育男君
 北野 公一君

表彰技術名—北海道生まれの耐震・断熱改修工法

◆北海道支部技術賞

辻石材工業株式会社

辻 明宏君

村井 均君

古館 謙君

篠原 雅樹君

工藤 好樹君

表彰技術名—地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承

(3)審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考委員会を構成する委員の確認をした後、委員会を計2回開催した。

初回の技術賞選考委員会では、応募資料から推薦者となっている選考委員を選考に加えないこととして、応募された下記5件（応募順・技術名のみ記載）の内容について協議した。

- (a) 放送機能維持に配慮した建物上鉄塔における制振補強技術の開発
- (b) 地域シーズを活用した地域住宅の実現と普及
- (c) 北海道生まれの耐震・断熱改修工法
—既存木造住宅の壁内気流止め及び接合部補強・壁耐力向上技術—
- (d) 地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承

(e) 地場で生産・加工したカラマツとRCを組み合わせたトライーハイブリッド構造の開発
以上5件について、選考委員会で技術内容を把握した。特に追加資料の提出は求めず、また選考委員の追加は行わずに選考を進めることとした。その際、表彰技術候補の選考方法は、募集要領の選考基準を「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に分け、それぞれの観点について各委員の3段階評価による採決の後、協議によって決定することとした。その後、2回目の選考委員会において、協議・採決の結果、上記(c)および(d)の2件を表彰候補技術として選定した。選定理由は以下の通りである。

(c) 北海道生まれの耐震・断熱改修工法は、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」のすべての観点において優れた技術と評価された。特に、少子高齢・過疎社会に入る北海道内の社会構造の変化を背景に、既存の戸建住宅の耐震および断熱改修工法の開発とその普及は極めて重要な地域課題と言える。北海道内における住宅の長寿命化および安全・安心・快適性が得られるための建築技術の普及によって、今後、北海道外への技術の継承などが期待される。

(d) 地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承は、「地域性・独自性」、「継承性・継続性」の観点で高い評価を得た。具体的には、北海道の地産材である札幌軟石を活用した長年にわたる景観づくり、および札幌軟石の伝統的な建築技能の継承について高く評価された。今後は、地産材としての札幌軟石の活用、技能継承のための後継者育成などが期待される。

選外の(a)、(b)、(e)についても、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」のそれぞれの観点で高い評価があり、選考委員会で協議を重ねたが、上記(c)および(d)に及ばなかった。

技術賞選考委員会より、上記(c)および(d)を表彰技術候補として支部役員会に報告・審議した結果、2014年度日本建築学会北海道支部技術賞として表彰することが決まった。

(文責：斉藤 雅也)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：3名，実行委員数：11名，委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2014年11月21日の発表会に向けて第34回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員8名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第34回建築作品発表会作品集VOL-34を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2014に実行委員の鈴木理氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2015/2月号に植田暁氏が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第34回建築作品発表会の報告

期日：2014年11月21日（金曜日）

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：25作品

今年も北海道建築の一年間の総括の場といえる第34回北海道建築作品発表会が開催された。11月21日と年末の慌ただしい時期とはいえ、作品発表の積極的な登録と共に、様々な年齢層及び職種の方々含め多くの参加者があった。建築作品発表会のプログラム構成は、第1部、2部の各発表に加え、第3部には全発表作品を横断しながら議論を深めるための「フォーラム」が配置された。第1部、2部の発表では、簡単な質問の受け答えはあるものの時間の制約もあって深い議論はできない。そのため、第3部にフォーラムの時間を確保し司会者が様々な切り口をもって、あらためて各作品の特性、あるいは作品間の共通性に着目し議論を進行させ、2014年の北海道建築界の一面を明らかにすることになる。一方、オーディエンスは、発表者たちの議論を目の当たりにしながら、自らも自らに対して対話を生み出す。この自己との対話からは、何かがふつつつと喚起され、今後の建築を捉えていく上で有益な観点を獲得することが出来る。このように、この建築作品発表会は、現状の問題意識を共有し、そして建築をさらに進化させていくための動機付けの機会となってきた。あらためて34年間の建築作品発表会の歴史は、北海道建築を成長へと導くための一つのステージとして機能してきたと言える。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

本連絡会では、事業系5委員会の事業進捗状況と連携、その際の問題点等の把握、常議員会へ改善提案等の活動を行うこととしている。過去議題にあがった事項の対応として、本年度についても建築文化週間中に第39回の北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施された。また、卒業設計審査委員会より出されていたHPへの入選作品の掲載については、HP管理委員会との連携し最新年度までが掲載されている。

7. 2 総務委員会（委員長：小澤 丈夫君，担当常議員，委員会開催数1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会（1回）を開催して、両団体の活

動に関する情報交換を行った。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，幹事：齊藤 雅也君，委員数：3名，メール等による情報交換を数回実施）

2014年度は以下を実施した。

- 1) 支部役員会、事務局等の要請に応じて掲載内容の更新作業を行なった。
- 2) 委員間でメール会議を実施した（数回）。
- 3) ホームページの全面更新に関する議論を学術委員会に発議し，更新のコンセプトを決定した。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2015. 3. 3	2014年度支部共通事業 「建築物荷重指針」改定講習会	北海道建設会館	高田 毅士 他4名	38名

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2014. 6. 28	会長支部訪問記念講演会「新体制における課題と対応 東日本大震災の経験をいかし、レジリエントで持続可能な社会に向け一総力を結集できる学会をめざして」	釧路工業高等専門学校	吉野 博	120名
10. 24	建築文化週間「第39回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学舎	海藤 裕司 他1名	約60名
11. 21	「第34回北海道建築作品発表会」	北海道立近代美術館大講堂	作品数25点	約300名
12. 16	「環境とエネルギーの関係について学ぼうー省エネルギーへのアプローチ」	北海道小樽工業高等学校	半澤 久	78名
2015. 3. 16	「建築構造を裏づける科学」	北海道苫小牧工業高等学校	岡崎太一郎	39名

(3) 支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2014. 7. 19	「岡田成幸先生 2014 年度日本建築学会賞（論文）受賞記念講演会」（都市防災専門委員会、構造専門委員会）	センチュリーロイヤルホテル	岡田 成幸	58 名
10. 4	建築文化週間「地震防災体験学習－地域で進める防災対策－」（都市防災専門委員会）	厚真町総合福祉センター	森 太郎他	50 名
12. 10	シンポジウム「帯広電信通り商店街のまちづくり」（都市計画専門委員会）	札幌市立大学サテライトキャンパス	長谷 渉	27 名
12. 11	「21 世紀の建築と構造デザイン」（構造専門委員会）	北海道大学 B1 棟 B32	金箱 温春	102 名
2015. 1. 13	「北海道の地方都市をめぐる都市計画の現状と課題について」（都市計画専門委員会）	北海道大学工学部 建築棟	田中 互	50 名
3. 6	第9回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs14（環境工学専門委員会）	札幌市立大学サテライトキャンパス	発表題数 29 題	68 名
3. 11	公開研究会 「ユニバーサルデザイン」はどこに向かうのか～北海道の取り組み事例から考える～（建築計画専門委員会）	札幌駅前通地下歩行空間内 札幌駅側イベントスペース	松田 雄二 他 2 名	47 名

8. 3 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2014. 4. 14	「札幌競馬場スタンド改築その他工事」見学会	現場担当者	28 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
6. 27	「釧路市防災まちづくり拠点施設建築主体工事」見学会	現場担当者	12 名	都市防災専門委員会 構造専門委員会
8. 4	「北海道大学植物園内博物館補強工事現場」見学会	現場担当者	15 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
10. 11	建築文化週間「建築探訪～函館市」	吉村富士夫 他 2 名	30 名	歴史意匠専門委員会
11. 1	「下川町住宅見学会」	現場担当者	9 名	北方系住宅専門委員会 環境工学専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2014. 5. 14～16 6. 13～15 11. 17～20	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	150 名 100 名 110 名
7. 3～ 11. 21	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 377 名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2014 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会 (主査：川人 洋志君, 委員数：5名, 委員会開催数：1回)

支部審査員：

主 査： 川人 洋志君

委 員： 赤坂 真一郎君, 小西 彦仁君, 山田 良君, 山之内 裕一君

(2) 審査講評

委員会活動として設計競技審査会を2014年7月14日、午後6時30分より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「建築のいのち」であり、9案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て2案を支部入選案として決定した。応募案のなかには、道外からの応募もあったが、入選案2案は、道内からの応募であった。支部入選案2案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。今後の進展を期待したい。

2014年度支部共通設計競技「建築のいのち」審査評

設計競技審査会を2014年7月14日、午後6時30分より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「建築のいのち」であり、9案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て2案を支部入選案として決定した。支部入選案2案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。今後の進展を期待したい。以下に支部入選作2案の審査評を記す。

“ループ&ループ”

荘司大幾 (室蘭工業大学大学院)・本間大貴 (同左)・戸田啓太 (室蘭工業大学学部) 案

林業を題材に解かれた作品である。日本の林業は事業費と木材価格のアンバランスな状況により、輸入木材に市場を奪われているのが現状である。かつて林業王国であった日本の山は、その所有者も見放すほどの状況となった。そのような事で昨今では国や自治体も国産材の見直しを始め公共建築などの木造化などを押し進めている。

この計画地の北海道下川町はまさに林業の町で環境省はじめ、町ぐるみで林業改革や様々な事業に取り込んでいる。この提案は林業従事者の育成と街の交流スペースという機能を持たせ、人々に林業を短かに感じさせ更に木でつくられた空間により樹木の弛まないいのちの転生を考えさせる提案であり、これに賛同と好感を持たずにはいられない。

(文責：小西 彦仁)

“風景が生まれるとき、建築がうまれるとき”

佐藤孝祐 (北海道科学大学大学院)・長沢麻未 (北海道大学大学院) 案

「建築のいのち」。長寿命やサステナビリティに限らず、「建築のつくり方」「建築のあり方」を問う課題。建築の質とは何かをあらためて問いながら、アイデアの純度と具体的な空間や風景をイメージする力量が試される。提示されたアイデアは、風景との対峙にはじまり、あらたな風景を生み出すメディウムとしての建築群。提出図面から引用すれば「風景が建築を作り、建築が風景を作る。そこからまた建築のいのちが生まれる。」として、建築のいのちと風景が不可分であることを唱えている。「風景は見る者により創られる」とする中村良夫氏の論とも重なり、あらためて建築のつくり方の可能性のひとつであることと、つくられた後に見せるであろう静かな存在感を想起させ僕を魅了した。

(文責：山田 良)

9. 2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告 (主査：加藤 誠君：委員数6名：委員会開催数2回及び 現地審査)

2014年度応募数全6作品に対して、4日に渡る現地審査並びに2回にわたる選考委員会を開催し、本部にて決定された支部推薦枠である3作品を選考し本部へ推薦した。

支部審査員：

主 査：加藤 誠君

委 員：小澤 丈夫君， 齊藤 雅也君， 照井 康穂君， 西村康志郎君， 山田 良君

(2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 6点

支部選考通過作品数 3点 (内本部採用・作品選集掲載作品数1点)

・沼田小学校 (作品選集掲載作品)

加藤 誠君	：	(株)アトリエブंक
金箱 温春君	：	金箱構造設計事務所
菅沼 秀樹君	：	(株)アトリエブंक
池島 光俊君	；	(株)アトリエブंक
池村 菜々君	：	(株)アトリエブंक

9. 3 建築文化週間

①テーマ：「地震防災体験学習ー地域で進める防災対策ー」

主 催：日本建築学会北海道支部

共 催：厚真町

後 援：北海道

日 時：2014.10.4(土)

場 所：厚真町総合福祉センター

講 師：森 太郎 (北海道大学) 他

参加対象：学会員、町民(親子)、市町村職員、建築技術者

参加者：50名

②テーマ：第39回(2014年度)北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2014.10.24(金)

講 師：大杉 崇「イヌエンジュの家」の設計(第39回北海道建築奨励賞)

海藤 裕司「伊達市総合体育館あかつき」の設計(第39回北海道建築奨励賞)

場 所：北海道大学遠友学舎

参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生

参加者：約60名

③テーマ：歴史的建造物の見学「建築探訪～函館市」

主 催：日本建築学会北海道支部

共 催：函館の歴史風土を守る会

日 時：2014.10.12(土)

場 所：ロシア領事館・高龍寺・相馬邸・東本願寺・天祐寺・縄文文化センター・五稜郭奉行所他

講 師：吉村富士夫(支部歴史意匠専門委員会)他

参加対象：学会員、一般市町村、学生

参加者：30名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ)：8名，開催数：1回)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項につ

いて協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。2014年度ジョイントセミナーは、角幸博北海道大学名誉教授を講師に開催された旨報告があった。

10. 2 北海道建築設計会議 (幹事会開催数：12回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、吉田栄一君と高松圭君の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

12. 共催・後援

1) 共催

期 日	名 称	会 場	主 催
2015. 1. 11	防災ワンデー「釧路防災講演会 2015」～ 厳冬期の避難を考える～ 「駅から始まる“まちづくり”を考える」	アクア・ベール	釧路市連合町内会、釧路市 連合防災推進協議会、釧路 市家庭防災推進員連絡協 議会/NHK 釧路放送局、釧路 地方气象台

2) 後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2014. 7. 19	平成 26 年度第 1 回都市地域セミナー 「駅から始まる“まちづくり”を考 える」	岩見沢駅舎 2 階 センターホール	(公社) 日本都市計画学 会北海道支部
応募締切 2014. 8. 8	第 39 回北の住まい住宅設計コンペ		(一社) 北海道建築士事 務所協会
2014. 10. 8	コンクリートの日 in Hokkaido 出前講座 大学から実務者へ ～情報技術の発信と情報交換～	KKR ホテル札 幌	(公社) 日本コンクリ ート工学協会北海道支部
10. 9	「セメントの底力セミナー」	北海道大学工学 部フロンティア 化学応用研究 棟・鈴木章ホール	(一社) セメント協会
11. 25	サステナブルキャンパス国際シンポ ジウム 2014	北海道大学学術 交流会館	北海道大学
11. 29	日本都市計画学会北海道支部研究発表 会	札幌市民ホール	(公社) 日本都市計画学 会北海道支部
2015. 1. 21 他	地震防災セミナー	札幌市教育文化 会館 旭川市民会館	北海道
2. 3	「寒冷地の戸建住宅における省エネル ギーと快適性を目指して」	ANA クラウン プラザホテル千 歳	北海道ガス(株)
2. 12	第 24 回旭川建築作品発表会	旭川市神楽公民 館 「木楽輪ホール」	旭川まちなみデザイン 推進委員会
3. 2	次世代都市・建築のエネルギー需給の あり方 北海道の未来はどうなる？	北海道大学学術 交流会館	(公社) 空気調和・衛生 工学会北海道支部
3. 10	第 48 回セメント系固化材セミナー 「最近の固化処理について」	ポールスター札 幌ポールスター	(一社) セメント協会

		ホール	
3.10	平成26年度第2回都市地域セミナー 「北国の都市における“広場の活用” を考える	札幌学院大学社 会連携センター ビル	(公社)日本都市計画学 会北海道支部
3.26	赤れんが前エネルギーセンター見学会	(株)北海道熱供給 公社赤れんがエ ネルギーセンタ ー	(公社)空気調和・衛生 工学会北海道支部

II 2014年度収支決算報告

2014年度 貸借対照表

2015年 3月31日現在

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	2,989,299	5,723,872	△2,734,573	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	24,000	12,000	12,000
前払金	168,684	168,684	0	預り金	20,011	20,023	△12
仮払金	33,577	33,346	231	仮受金	584,715	584,974	△259
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	3,191,560	5,925,902	△2,734,342	流動負債合計	628,726	616,997	11,729
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	840,000	780,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	840,000	780,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,468,726	1,396,997	71,729
学術振興基金引当資産	5,150,000	2,540,000	2,610,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,810,000	2,810,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	840,000	780,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,700,000	8,030,000	2,670,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	12,984,384	13,120,455	△136,071
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(9,860,000)	(7,250,000)	(2,610,000)
固定資産合計	11,261,550	8,591,550	2,670,000	正味財産合計	12,984,384	13,120,455	△136,071
資産の部合計	14,453,110	14,517,452	△64,342	負債及び正味財産合計	14,453,110	14,517,452	△64,342

2014年度 正味財産増減計算書

2014年 4月 1日から 2015年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,515,000)	(15,539,000)	(△9,024,000)				
支部費	1,502,000	1,505,000	△3,000				
支部経営助成費	1,800,000	1,890,000	△90,000				
事業促進費	300,000	750,000	△450,000				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	542,000	536,000	6,000				
大会交付金	0	8,500,000	△8,500,000				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,871,000	1,858,000	13,000				
他会計からの振替額計	6,515,000	15,539,000					
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)	(1) 実施事業会計	(1,504,502)	(2,374,612)	(△870,110)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)	調査研究事業	(611,474)	(1,231,388)	(△619,914)
表彰関係	175,000	175,000	0	調査研究事業	611,474	1,231,388	(△619,914)
(2) その他会計	(2,304,772)	(41,807,123)	(△39,502,351)	表彰・顕彰事業	(590,591)	(811,473)	(△220,882)
研究会事業	(2,304,772)	(41,807,123)	(△39,502,351)	表彰関係	587,003	789,547	△202,544
支部研究発表会	1,181,308	1,161,955	19,353	設計競技	3,588	21,926	△18,338
建築作品発表会	913,304	937,528	△24,224	社会対応事業	(302,437)	(331,751)	(△29,314)
過年度研究会事業	210,160	14,000	196,160	文化事業	285,666	305,207	△19,541
大会事業	0	39,693,640	△39,693,640	展示会事業	16,771	26,544	△9,773
(3) 法人会計	(131,213)	(99,713)	(31,500)	(2) その他会計	(1,940,912)	(46,381,398)	(△44,440,486)
特定資産運用益	(3,073)	(10,646)	(△7,573)	研究会事業	(1,940,912)	(46,381,398)	(△44,440,486)
特定資産受取利息	3,073	10,646	△7,573	支部研究発表会	864,572	991,826	△127,254
雑収益	(128,140)	(89,067)	(39,073)	建築作品発表会	1,076,340	987,306	89,034
受取利息	1,129	1,054	75	大会事業	0	44,402,266	△44,402,266
雑収益	127,011	88,013	38,998	(3) 法人会計	(5,816,642)	(5,756,521)	(60,121)
				支部運営	(306,010)	(231,807)	(74,203)
				支部総会	246,694	218,477	28,217
				支部役員会	37,716	13,330	24,386
				選挙管理委員会	6,000	0	6,000
				その他運営費	15,600	0	15,600
				支部事務運営	(5,510,632)	(5,524,714)	(△14,082)
				給与手当	1,848,670	1,871,900	△23,230
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	323,443	319,005	4,438
				福利厚生費	24,850	19,475	5,375
				通勤手当	164,760	163,920	840
				旅費交通費	55,930	22,390	33,540
				通信回線費	121,349	127,091	△5,742
				発送運搬費	31,292	29,158	2,134
				消耗品費	27,819	122,413	△94,594
				印刷費	93,033	92,876	157
				地代家賃	2,024,208	1,967,988	56,220
				水道光熱費	529,167	518,101	11,066
				雑費その他	206,111	210,397	△4,286
経常収益計	2,610,985	42,081,836	△39,470,851	経常費用計	9,262,056	54,512,531	△45,250,475
当期経常増減額	△6,651,071	△12,430,695	5,779,624				
当期一般正味財産増減額	△136,071	3,108,305	△3,244,376				
一般正味財産期首残高	13,120,455	10,012,150	3,108,305				
一般正味財産期末残高	12,984,384	13,120,455	△136,071				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高	12,984,384	13,120,455	△136,071				

注:正味財産増減計算書における前年度(2013年度)の各科目の金額は、現在の「平成20年公益会計基準」の科目に当てはめたものであり、前年度(2013年度)の正味財産増減計算書に記載の数値と異なる。但し、前年度の当期一般正味財産増減額ならびに正味財産期末残高に変更はない。

2014年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2014年4月1日 ～ 2015年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科 目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,524,000)	(6,515,000)	(9,000)
支部費収入	1,423,000	1,502,000	▲ 79,000
経営助成費収入	1,890,000	1,800,000	90,000
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	540,000	542,000	▲ 2,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計	6,524,000	6,515,000	9,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係	175,000	175,000	0
その他会計	(2,230,000)	(2,304,772)	(▲74,772)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,304,772)	(▲74,772)
支部研究発表会	980,000	1,181,308	▲ 201,308
建築作品発表会	1,250,000	913,304	336,696
過年度研究集会事業	0	210,160	▲ 210,160
法人会計	(126,000)	(131,213)	(▲5,213)
特定資産運用益	5,000	3,073	1,927
特定資産受取利息	5,000	3,073	1,927
雑収益	(121,000)	(128,140)	(▲7,140)
受取利息	1,000	1,129	▲ 129
雑収益	120,000	127,011	▲ 7,011
経常収益計	2,531,000	2,610,985	▲ 79,985
実施事業会計	(1,930,000)	(1,504,502)	(425,498)
調査研究事業	(740,000)	(611,474)	(128,526)
調査研究事業	740,000	611,474	128,526
表彰・顕彰事業	(760,000)	(590,591)	(169,409)
表彰関係	720,000	587,003	132,997
設計競技	40,000	3,588	36,412
社会対応事業	(430,000)	(302,437)	(127,563)
文化事業	400,000	285,666	114,334
展示会事業	30,000	16,771	13,229
その他会計	(2,230,000)	(1,940,912)	(289,088)
研究集会事業	(2,230,000)	(1,940,912)	(289,088)
支部研究発表会	980,000	864,572	115,428
建築作品発表会	1,250,000	1,076,340	173,660
法人会計	(5,893,000)	(5,816,642)	(76,358)
支部運営	(244,000)	(306,010)	(▲62,010)
支部総会	200,000	246,694	▲ 46,694
支部役員会	40,000	37,716	2,284
選挙管理委員会	2,000	6,000	▲ 4,000
その他の運営費	2,000	15,600	▲ 13,600

支部運営(非課税)	(5,649,000)	(5,510,632)	(138,368)
給与手当	1,800,000	1,848,670	▲ 48,670
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	300,000	323,443	▲ 23,443
福利厚生費	0	24,850	▲ 24,850
通勤手当	165,000	164,760	240
旅費交通費	30,000	55,930	▲ 25,930
通信回線費	172,000	121,349	50,651
発送運搬費	30,000	31,292	▲ 1,292
消耗品費	90,000	27,819	62,181
印刷費	100,000	93,033	6,967
地代家賃	2,024,000	2,024,208	▲ 208
水道光熱費	648,000	529,167	118,833
雑費その他	230,000	206,111	23,889
経常費用計	10,053,000	9,262,056	790,944
当期経常増減額	▲ 7,522,000	▲ 6,651,071	▲ 870,929
一般正味財産増減額	▲ 998,000	▲ 136,071	▲ 861,929
一般正味財産期首残高	12,878,000	13,120,455	▲ 242,455
一般正味財産期末残高	11,880,000	12,984,384	▲ 1,104,384
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	11,880,000	12,984,384	▲ 1,104,384

監査報告

2014年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2015年 4 月 21 日

支部監事 _____

支部監事 _____

Ⅲ 2015 年度事業計画方針案

1. 活動方針

北海道は独特の気候、風土をもち、建築や都市は、地域性、場所性の認識が必要である。地域性は、これまで北海道に内在する事象に向けられた切実な思いと眼差しが、高い解像度の研究を生み、グローバルな価値を有している。そして学術、産業においても共有されて、領域を超えた議論や交流がなされている。その場の一つが、北海道支部である。それは、専門委員会や特定課題研究委員会での研究活動であり、支部研究発表会や作品発表会の支部発表会に表れている。

(1) 支部活動の活性化と財政の強化

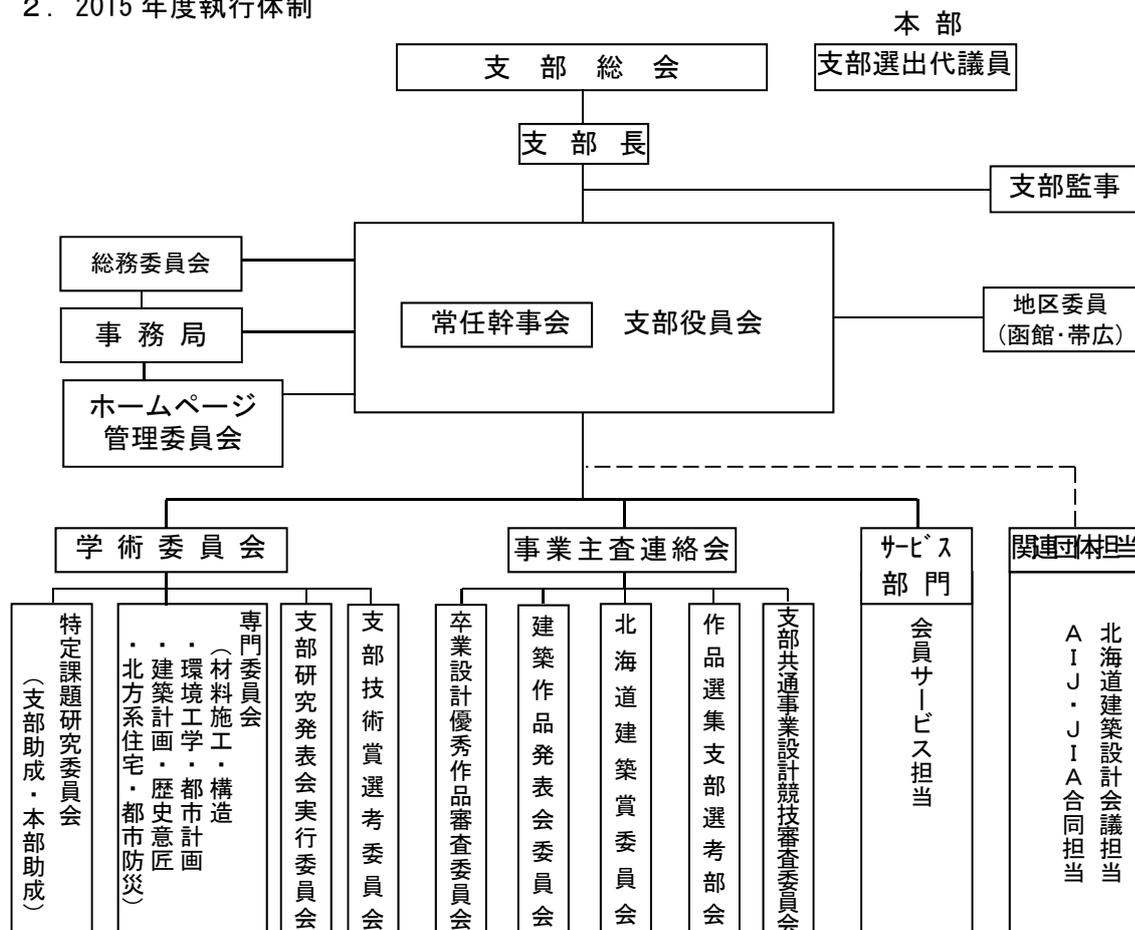
建築学会における支部の存在の重要性とともに、慢性的な支部財源の逼迫による支部運営への影響が出ている。これに関しては、前支部長から本部での議論のステージに上がっており、理事会、支部長会議では支部費配分額の見直しについて、解決をめざす項目として継続審議をしている。

支部技術賞や支部研究発表会での若手発表者の顕彰は、研究活動の活性とともに会員の減少の歯止めとしても期待している。また支部研での企業参加のパネル展も学術、産業の連携の場である。

(2) 支部の情報発信

支部ホームページの利用促進・活用方法の検討が必要である。新年度は、支部 HP 用のサーバーも増強され、北海道支部においても HP リニューアルの予算を計上している。プログツールや Facebook などを用いる案が出ており、早期に情報内容の取捨選択などを検討する準備検討ワーキングや日常的に運営される HP 運営委員会の補強を計る。

2. 2015 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2014.6.1~2016.5.31)

佐藤 孝君 北海道科学大学教授

新任常議員(2015.6.1~2017.5.31)

赤坂真一郎君 (株)アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役
安藤 淳一君 道都大学教授
※魚住 昌広君 北海道科学大学准教授
大條 雅昭君 北海道総務部総務課ファシリティマネジメントグループ 主幹
谷口 円君 北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所
環境科学部構法材料グループ主査
馬場 将考君 岩田地崎建設(株)設計部総合主事
※原田 慎一君 清水建設(株)北海道支店主査

新任常議員は、支部役員選挙開票(2015年4月15日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆岡崎太一郎君, 石丸 修二君, 白井 和貴君, 高松 圭君, 谷口 尚弘君

留任常議員(2014.6.1~2016.5.31)

石丸 修二君 (株)北海道日建設構造設計室
※岡崎太一郎君 北海道大学准教授
小西 彦仁君 (有)ヒココニシ設計事務所代表取締役
菅沼 秀樹君 (株)アトリエブंक取締役設計部長
※谷口 尚弘君 北海道科学大学教授
山本 悦徳君 北海道札幌工業高校教諭
吉田 栄一君 大成建設(株)札幌支店作業所長
(※印 常任幹事)

新任代議員 (2015.4.1~2017.3.31)

岡田 成幸君 北海道大学教授
半澤 久君 北海道科学大学教授
(2015年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出された)

留任代議員 (2014.4.1~2016.3.31)

大柳 佳紀君 北方型住宅 ECO 推進協議会事務局長
本井 和彦君 (株)竹中工務店北海道支店設計部設計グループ副部長

新任支部監事 (2015.6.1~2017.5.31)

角 幸博君 北海道大学名誉教授
(2015年4月の支部役員会で選出された)

留任支部監事 (2014.6.1~2016.5.31)

加藤 誠君 (株)アトリエブंक専務取締役

地区委員 (2015.6.1~2016.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2015年5月15日(金)
会場 北海道建設会館

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会 (主査：齊藤 雅也君, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認(技術パネル展の実施)、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

4.2 専門委員会

◆材料施工専門委員会 (主査：長谷川拓哉, 委員数：22名, 委員会開催予定数：6回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催

◆構造専門委員会 (主査：串山 繁君, 委員数：22名, 委員会開催数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 構成委員数は22名。
- 2) 委員会は2回(6月, 12月)、幹事会は2回(9月, 3月)の開催を予定し、必要に応じて通信会議を開く。
- 3) 講演会・講習会は、1回(随時)開催する。
- 4) 見学会は、建築物(施工中も含む)等を対象に2回程度(随時)実施する。
- 5) 勉強会は、委員会開催時に構造に関わらず幅広い分野を対象に行う。

◆環境工学専門委員会（主査：森 太郎君，委員数：14名，委員会開催予定数：4回）

2015年度は以下の活動を予定している。

- 1) 学位を取得した若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築、最新の設備技術を駆使している建築の見学会を実施する。北方系住宅専門委員会と連携して共催による見学会を実施する。
- 3) 「第10回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 15（会場：未定）」の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会ほか、本委員会の関係組織が主催する講演会、セミナー等を支援する。

◆建築計画専門委員会（主査：真境名 達哉君，委員数：13名，委員会開催予定数：複数回）

専門委員会の基本的意義である北海道の建築計画（学）分野にかかわる学会員の相互交流の場として、本委員会のさらなる活性化を行う。また寒冷地としてだけではなく、北海道独自の計画的テーマの模索を行う。具体的には、(1) 委員各々の取り組みを勉強会形式により相互に紹介、建築計画（学）に関わる様々な課題や問題についての情報を共有する、(2) 勉強会を発展させるようなかたちで、特定のテーマに絞ったミニシンポジウムの開催または見学会の実施を行い、課題認識を深める、(3) 少子高齢化・過疎化をはじめ北海道の特色ある課題の抽出、またそれらに関する支部活動を企画・実施する、(4) 今日の北海道において取り組むべき、建築計画（学）に関わるテーマを具体的かつ体系的に整理し、科学研究費補助金等への申請も視野に入れた、次年度以降の共同研究課題について検討する。

◆都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一君，委員数：14名，委員会開催予定数：6回）

2015年度の委員会活動は、情報発信と人材育成に関わる活動を継続する。情報発信では、市民のまちづくり意識の醸成と知見の拡充に貢献すべく、7月にシンポジウム開催を計画している。再開発のすすむ地区のまちづくりのあり方など、活発な議論と多くの市民参加に繋がる企画を目指す。人材育成では、都市計画で活躍する人材の育成に向け、ビジョンとプロセスとマネジメントを理解する場を設ける。具体的には、人口減少時代に突入する北海道の地方都市に求められる新たな都市像などをテーマに勉強会を行う。

◆歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名，委員会開催予定数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整備する。

- ① 2015年度の建築文化週間事業として、道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために、国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例としたシンポジウム（10/10）を北海道支部都市計画専門委員会・環境工学委員会、日本建築家協会北海道支部と協力して開催する。
- ② 北海道内の文化財建造物については、引続き WG で検討を行い、リストづくり、パトロール、カルテ・報告書づくり、修理工事等の予算要求を行うシステムづくりを進めるために、北海道ヘリテイジマネージャー育成講習会の修了生を活用した体制を整備する。
- ③ 札幌市以外での委員会開催と同時に、地域の歴史的建造物の保存活用を行っている団体と合同で見学や建築調査を行い、意見交換を行う。

◆北方系住宅専門委員会（主査：谷口 尚弘君，委員数：12名，委員会開催予定数：4回）

新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため、年4回の委員会を開催する。

- 1) 2014年度継続で「北海道の住まいの歩み」について、報告書等にまとめるための協議を実施する。また、パネル展および講演会の実施を検討する。
- 2) 北海道の集合住宅や雪処理対策に関わる勉強会や集合住宅のあり方の勉強会を実施する。
- 3) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会を実施する。
- 4) 住宅ストックの持続的活用による北海道の住文化の形成に資するための「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」の研究を、中古住宅流通等の視点から継続的に研究を進めていく。

◆都市防災専門委員会（主査：戸松 誠君，委員数：20名，委員会開催予定数2回）

■活動方針

委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

■主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」への支援（10月頃を予定）。
- 2) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

なし

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2015年度より)

◆寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究委員会

(主査：森 太郎君，委員数：3名，委員会開催予定数：複数回数)

- ①道内の幾つかの市町村（美瑛町，寿都町，鶴居村）で生活実態に関するアンケート調査
- ② 公的な統計情報の分析（厚生労働統計，総務省家計調査等）
- ③ Fuel Povertyの実態とその背景の分析
- ④海外の状況の調査（実態，支援状況）

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：岡本浩一，幹事：石橋達勇，
実行委員会委員数：18，委員会開催予定回数：4回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 4) 特別企画の実施および技術パネル展開催支援
- 5) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 6) 支部研究報告集（冊子およびCD-ROM）の作成および発行
- 7) 支部研究発表会の実施
- 8) 優秀講演奨励賞の選定・授与

5. 2 支部研究発表会の実施

第88回北海道支部研究発表会

日時：2015年6月27日（土）一般研究発表会、特別企画、技術パネル展

場所：北海学園大学工学部（山鼻キャンパス）

懇親会：講演会終了後に同キャンパス内生協食堂で実施

原稿提出締切：2015年4月16日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子およびCD-ROM）No. 88 を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：山田 深君，委員数：7名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第40回北海道建築賞の応募期間：2015年4月15日（水）～5月15日（金）
- 2) 審査期間：5月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9月下旬
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10月30日（金）予定

（3）委員構成

今年度より委員を下記の通り交替し、委員会運営を行う。

山田深（室蘭工業大学：主査）、小篠隆生（北海道大学）、齋藤利明（札幌市立大学）、佐藤孝（北海道科学大学）、海藤裕司（山下設計北海道支社）、福島明（北海道科学大学）、赤坂真一郎（アカサカシンイチロウ・アトリエ）

（4）記念誌の発刊

第40回を迎えるにあたって、1990年より現在（1990年までは、既発刊の記念誌で網羅している）までの審査講評などをまとめた記念誌の発刊を検討する。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催予定数：1回）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2015年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2014年度と同様、2015年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰する

ことにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：3名，実行委員数：11名，委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2015年度は、建築作品発表会が第35回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく35年目の発表会用プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

7. 2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，予定開催数：複数回）

事業系5委員会について、事業の進捗状況ならびに事業を進める上での問題点等を適宜把握する。これを通じて、意思決定機関である支部役員会へ改善や展開の提案等をおこなう。また、この役割を今後も果たすために必要な活動を推進する。さらに、事業系5委員会が連携しながら事業総体の活性化を計る可能性についても検討を継続する。

8. 2 総務委員会（委員長：小澤 丈夫君，担当常議員，委員会開催予定数1回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2015年度）

委員長：小澤 丈夫君 北海道大学

委員： 新任常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，委員数：2名，委員会開催予定数：複数回）

2015年度は以下の活動を予定している。

- 1) 支部役員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) 支部ホームページの全面更新を行う。
- 3) 各委員会ページ等の更新方法について検討を行う。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2015年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2015年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君，委員数：5名，委員会開催予定数：1回）

2015年度設計競技審査委員会は、主査、川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、山田良、山内裕一の5名で行う予定である。

2015年度の課題は「もう一つのまち・もう一つの建築」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

2014年度の応募総数は、9案で、前回は応募作品数12案を下回った。他支部に比して少ない状況は依然変わっていない。とはいえ、近年は、道外からの応募もあり、応募数の増加が見込まれる予感はある。今後の活況を期し今年度に続いて審査委員会構成メンバーと連携を図り道内大学学生に参加の呼びかけを行いたい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：山田 良君，委員数：6名，委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2014年度の実績は前年度より1作品少ない6作品であり、過去最低の実績であった。全国の実績が過去最高であったのに比べて北海道支部の少なさが目立つ。内訳は住宅が1作品、そのほか非住宅は多様なビルディングタイプの応募が見られた。また道内事務所からの応募者がわずか2作品にとどまった。2015年度では、幅広い会員層に対してより積極的に応募を求めよう呼ばれていきたい。委員による現地審査は作品選集の全審査行程において重要であるため、今後も引き続き重視したい。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 地震防災体験「地震時の我が家のバーチャル体験」 (都市防災専門委員会)
2. シンポジウム「道民の力で北海道の歴史的建造物をまもり、活かすために
一 国指定重要文化財豊平館の構造補強と附属棟新築を事例として一」
(歴史意匠専門委員会)
3. 「第40回北海道建築賞表彰式・記念講演会」 (支部主催)

1 1. 建築関連団体との活動

1 1. 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ) : 常任 8 名, 委員会開催予定数 : 1 回)

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

1 1. 2 北海道建築設計会議

10 団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2015 年度収支予算案

2015年度 予算書(正味財産増減計算ベース) 北海道支部

科 目	2014年度予算額	2015年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,524,000)	(6,628,000)	(▲104,000)
支部費	1,423,000	1,609,000	▲186,000
経営助成費	1,890,000	1,800,000	90,000
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	-
建築文化事業費	540,000	548,000	▲8,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	-
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	-
他会計からの振替額計 (A)	6,524,000	6,628,000	▲104,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	-
その他事業会計	(2,230,000)	(2,230,000)	(0)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,230,000)	(0)
支部研究発表会	980,000	980,000	-
建築作品発表会	1,250,000	1,250,000	-
大会事業	-	-	0
法人会計	(126,000)	(126,000)	(0)
特定資産運用益	(5,000)	(5,000)	(0)
特定資産運用益	5,000	5,000	-
雑収益	(121,000)	(121,000)	(0)
受取利息	1,000	1,000	-
雑収益その他	120,000	120,000	-
経常収益計 (B)	2,531,000	2,531,000	0
[経常費用]			
実施事業会計	(1,930,000)	(1,840,000)	(90,000)
調査研究事業	(740,000)	(650,000)	(90,000)
調査研究事業	740,000	650,000	90,000
表彰・顕彰事業	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係事業	720,000	720,000	-
設計競技事業	40,000	40,000	-
社会対応事業	(430,000)	(430,000)	(0)
文化事業費	400,000	400,000	-
展示事業費	30,000	30,000	-
その他事業会計	(2,230,000)	(2,230,000)	(0)
研究集会事業	(2,230,000)	(2,230,000)	(0)
支部研究発表会	980,000	980,000	-
建築作品発表会	1,250,000	1,250,000	-
法人会計	(5,893,000)	(6,149,000)	(▲256,000)
支部運営	(244,000)	(244,000)	(0)
総会	200,000	200,000	-
常議員会	40,000	40,000	-
その他運営費	4,000	4,000	-
事務運営	(5,649,000)	(5,905,000)	(▲256,000)
給与手当	1,800,000	1,800,000	-
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	-
法定福利厚生費	300,000	325,000	▲25,000
福利厚生費	-	20,000	▲20,000
通勤手当	165,000	176,000	▲11,000
旅費・交通費	30,000	30,000	-
通信・回線費	172,000	172,000	-

発送・運搬費	30,000	30,000	-
消耗品費	90,000	90,000	-
印刷費	100,000	100,000	-
地代・家賃	2,024,000	2,024,000	-
水道光熱費	648,000	648,000	0
支払手数料	-	35,000	▲35,000
賃借料	-	140,000	▲140,000
雑費その他	230,000	255,000	▲25,000
経常費用計 (C)	10,053,000	10,219,000	▲166,000
当期経常増減額 (A)+(B)-(C)	▲998,000	▲1,060,000	62,000
当期一般正味財産増減額	▲998,000	▲1,060,000	62,000
一般正味財産期首残高	12,878,000	12,463,000	415,000
一般正味財産期末残高	11,880,000	11,403,000	477,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	11,880,000	11,403,000	477,000

<注記>

2015年度の「一般正味財産期首残高」は、2014年11月末時点における2014年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2014年度実績 2015年度予定)

	2014年度 特定資産積立・取崩 実績				2015年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2013年度末残高	2014年度積立	2014年度取崩	2014年度末残高	2015年度積立	2015年度取崩	2015年度末残高
学術振興基金引当資産	2,540,000円	2,720,000円	△110,000円	5,150,000円	0円	0円	5,150,000円
支部基金引当資産	2,810,000円	0円	0円	2,810,000円	0円	△200,000円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	780,000円	60,000円	0円	840,000円	60,000円	0円	900,000円
合計	8,030,000円	2,780,000円	△110,000円	10,700,000円	60,000円	△200,000円	10,560,000円

【2014年度 積立・取崩実績】

学術振興基金引当資産 2013年度全国大会(北海道)の剰余金2,720,000円を積み立てた。
2014年度支部特定課題および文化事業の実施に110,000円を取り崩した。

退職給付引当資産 2014年度職員退職給付引当金として60,000円を積み立てた。

【2015年度 積立・取崩予定】

支部基金引当資産 ホームページ整備費用として200,000円の取崩を予定。

退職給付引当資産 2015年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2015年3月末現在

◆法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00547-58	1	戸田建設(株)札幌支店
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コーポレーション
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00614-45	1	日本データサービス(株)
00729-26	1	亀田工業(株)	00560-51	1	(株)日本設計札幌支社
00517-00	5	鹿島建設(株)	00561-82	1	日本防水総業
00614-38	1	(株)ホーム企画センター 総務部	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00523-82	2	(株)熊谷組	00625-81	1	(株)アトリエアク
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00586-89	1	北農設計センター
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00597-74	1	(株)総研設計
00540-41	5	大成建設(株)札幌支店	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00568-07	1	(株)ドーコン
00544-49	2	(株)竹中工務店	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00674-76	1	(株)安藤・間札幌支店	00568-15	2	北海道コンクリート 工業
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00531-84	1	清水建設(株)北海道支店
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店	00538-83	2	(株)田中組
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社	00674-50	1	(株)中原建築設計 事務所
00684-22	1	(株)サンキョットエーイー	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)	00685-29	1	(株)北海道不二サッシ
00725-28	1	(株)コバエンジニア	00704-45	1	(株)アトリエブンク
00725-36	1	(有)北欧住宅研究所	00704-09	2	(一財)北海道建築指導 センター
00721-70	1	(株)土屋ホーム			

◆贊助會員

會員番号	口数	會員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00847-03	1	(株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>